

防災教育の1つとして、今年度も、小中合同による防災訓練を行いました。今回は、「地震・津波」を想定した訓練で行いました。小中学校それぞれが所定の避難移動をして、長崎総合科学大学の体育館(グリーンヒル体育館)に避難を想定して移動しました。校舎内の移動の際には、約束事「お・か・し・も」(押さない、かけださない、しゃべらない、もどらない)を意識する生徒が多かったです。また、実際の道路を移動する際も、迅速に動くことができていたと思います。小中合同で行うのは、去年から2回目になりますが、小学生も、高学年と低学年の児童がペアになって移動したりするなどの配慮がされていました。

「防災・安全教育担当」からの話や「校長先生」の講評後に、同じ地域に住む「児童・生徒同士の顔合わせ」を行いました。今年度は、小中学生の代表があいさつを行う形式でした。少し緊張している姿も見られましたが、小学生、中学生がしっかりとあいさつを行うと自然に拍手がおこりました。

この防災訓練を経験することによって、「今までよりも防災意識が高まった。」「以前より、日見地区における自然災害への関心が強まった。」「いざという場合には、小学生を助けないといけない」など、アンケートの意見がありました。これからの防災教育に生かしていきたいと思います。

